

各位

ホップ栽培を通じて浜松がつながる クラフトビールプロジェクト始動



遠州鉄道株式会社（本社：静岡県浜松市中央区旭町、代表取締役：丸山晃司、以下「遠州鉄道」）は、2027年に向け進めている旧飲食店テナントビルのコンバージョンの中で、地域企業の皆様とともに新たな価値を生み出す共創プロジェクトを始動します。

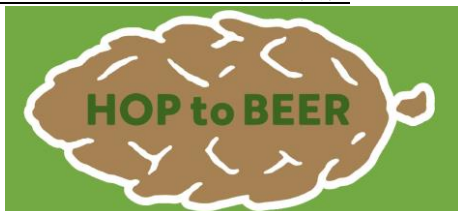
その第一弾として、株式会社 HACK（本社：静岡県浜松市中央区佐鳴台、代表取締役：高林健太、以下「HACK」）が主催する「HOP to BEER」プロジェクトに参画し、ビールの原料となるホップ栽培から関わり、「オリジナルクラフトビール」を共同で作り上げていきます。

下記が詳細となります。

記

1. 浜松の街に、新しい“乾杯”の文化を。

ホップ栽培から始まるクラフトビールプロジェクト始動



「HOP to BEER」は、地域企業が連携し、ホップの栽培から収穫・醸造までを一貫して行うことで、人と企業、そして街をゆるやかにつなぐ共創プロジェクトです。

遠州鉄道はこの取り組みに共鳴し、単なる“参加”にとどまらず、地域の皆様とともに価値を創出するパートナーとして、中心市街地の主要企業・団体にも協力いただきながら、本プロジェクトを推進してまいります。

（プロジェクト詳細）

- ・栽培体験 …参加企業へ苗を配布し、それぞれの場所でホップを育成（4～7月）
- ・収穫 …各拠点で育てたホップをそれぞれ収穫（8～9月）
- ・ビール醸造…集めたホップをもとに、オリジナルクラフトビールを醸造（10～12月）
※ビールの醸造は地元ブルワリーの「オクタゴンブリューイング」に委託
- ・試飲体験 …コンバージョン後の施設に集い、自身で作ったビールで乾杯し、つながる（1月）

（協力企業・団体）

静岡銀行	静岡県信用農業協同組合連合会
須山建設(株)	(株)村松商店
(株)プレジャーシップ・ダイニング	浜松まちなかマネジメント(株) 他

2. なぜ“ビール”なのか。

コンバージョンを進めている旧飲食店テナントビルは、かつて「ハートランド」として親しまれたビアホールが存在していました。そこには、人が集い、語り合い、自然と関係性が生まれていく—そんな“場の記憶”が息づいています。

遠州鉄道は今回の開発において、単なるオフィスへのリノベーションではなく、「人と人がつながる文化を再びこの場所に生み出すこと」を目指しました。

そこで遠州鉄道は“ビール”を使ってこの想いを形にします。

ホップを育てるところから関わり、収穫し、醸造し、そして完成したビールをかつてビアホールだったこの場所で味わう。この一連のプロセスそのものが、人と企業、そして街をつなぐ体験になります。

「自分たちで作ったビールを、この場所で飲む」—

その体験が、コンバージョン後の施設を“誰かの場所”ではなく、“自分たちの場所”へと変えていきます。

3. 目指すのは、「新ビルに行きたくなる理由」をつくること



本プロジェクトは、単にビールをつくる取り組みではありません。ホップ栽培という“関わり”から始まり、ビールという“形”になり、最終的にコンバージョン後の施設で体験を通して“つながる”。

遠州鉄道は、このような体験を通じて、関わった人や企業にとってこの施設が“自分たちの場所”となり、自然と足を運びたくなるきっかけを生み出していきます。

そしてこのような取り組みを通じて、
「遠鉄が新しいことにチャレンジしている」
「地域とともに“面白いこと”に挑戦する会社である」
という企業姿勢を、発信していきます。

以上

【本リリースに関する問い合わせ先】

遠州鉄道株式会社 地域共創推進室